

### 【3】 研究の経過と取り組み

#### 1. 平成10年度(1年次)の取り組み

##### (1) 前研究の反省と「生活を楽しむ」という視点での授業実践

前研究テーマ(生活を楽しむ子をめざして一題材の選定と支援の工夫)では、生徒の心に寄り添う支援をしていこうとする教師側の姿勢の変化により、生徒も大きく変容してきた。そこで、引き続き「生活を楽しむ」という視点での授業実践をしていこうという確認をした。全体授業研究会では卒業後の余暇を意識し、性教育の中で“おしゃれ”についての実践「素敵な人になろう!」を公開し、研究を深めた。

##### (2) 研究テーマの模索

前研究の反省から、より個に視点を当て、研究したいと話がまとまっていった。

#### 2. 平成11年度(2年次)の取り組み

##### (1) 研究の経過及び考え方についての確認

最近の本校生徒の社会参加にかかわる様子も検討しながら研究の経過や「生活を楽しむ」の考え方について話し合った。

##### (2) 諸検査、調査等による実態把握

段階別教育内容表到達度評価・田中ビネー知能検査等による実態把握、自分づくりの段階表の検討、保護者・本人への卒業後に向けての希望調査等を実施した。

##### (3) 「生活を楽しむ」像と支援の工夫についての検討

自分づくりの段階に沿った「自分の考えを持ち、活動のなかに喜びをみいだす生徒」の姿や、一人ひとりの「生活を楽しむ」像と個に応じた支援について検討した。

##### (4) 個別の指導計画の形式の検討と記入

他校の形式を参考にしたり、本校で作っている自分づくりの段階表や教育内容表との関わりを考えたりしながら、個別の指導計画の形式を繰り返し検討した。担任が生徒1名ずつを取り上げ、実際に記入してみることで、個別の指導計画の記入方法を確認したり、よりよい個別の指導計画づくりに努めた。

##### (5) 個別の指導計画の授業の中での生かし方の検討

各クラスでの授業実践例をもとに個別の指導計画の授業のなかでの生かし方を検討した。

#### 3. 平成12年度(3年次)の取り組み

##### (1) 自分づくりの段階表の見直し

自分づくりの段階表を見直し、支援のあり方について考え直した。

##### (2) 個別の指導計画の授業の中での生かし方の検討

個別の指導計画と授業とを結ぶ資料を作成し、両者の関連の仕方について模索した。各クラスでの実践をもとに、学部内で話し合ったことを全体授業研究会で公開し、深めていった。

#### 4. 本年度の取り組み

「生活を楽しむ子をめざして」一個別の指導計画をもとにした授業づくりというテーマのもと、研究の4年目に入った本年度は次の3つの点にしぼって研究を深めていくこととした。

##### ①「生活を楽しむ」について話し合おう。

年々生徒の実態は変わってきている。各担任が考えた個別指導計画を持ち寄って話し合うことにより、生徒の実態について共通理解ができ、個々の生徒の「生活を楽しむ姿」が見えてくると考えた。

##### ②授業実践をどんどんしよう。

個別の指導計画から得た情報をもとに、授業を実践していくことで個別の指導計画と授業とのつながりが見えてくると考えた。そして、「生活一般」を研究領域として取り上げ、実践していくことにした。

今回生活一般を取り上げたのは、

- ・個別の指導計画を具体的に授業の中に生かしやすかったこと
- ・生活一般は週に9時間あること
- ・卒業後の生活に直接つながる学習内容をたくさん含んでいること

の3つの理由からである。

##### ③評価について考えよう。

生徒の変容をどうとらえていくか、みんなで話し合おうとした。

#### (1) 本年度前期の取り組み

##### ①「生活を楽しむ」についての話し合い

一人ひとりの実態に関する情報を収集するため、新版K式発達検査、生活マップによるアンケート等を実施していった。また、保護者の我が子への願い(思い)を知るために、保護者アンケートも行った。そして、これらの情報をもとに、個別の指導計画を作成し、個々の「生活を楽しむ姿」について話し合った。

この個別の指導計画についての話し合いの中で、研究のテーマである「生活を楽しむ」とはいったいどういうことなのか、という疑問が浮かび上がってきた。そのためには、まず、高等部の生徒たちの生活を楽しんでいる現在の姿を話し合うことによって具体的な姿がみえてくるのではないかと考え、日頃の生徒たちの様子を話し合っていくこととした。

##### 高等部の生徒の生活を楽しんでいる現在の姿

- ◎いろいろな体験の中でいきいきと活動する姿
- ◎繰り返しの学習の中で技能を習得し、自信を持って行く姿
  - ・精神的に安定している姿
  - ・精神的に不安定になる自分を捉え、リフレッシュする姿
  - ・健康に過ごす姿

- ・根気強く活動しようとする姿
- ・一人でできたことに喜びを感じる姿
- ・友達と一緒に活動する/ことを楽しむ姿

この姿をもとに生活を楽しんでいる将来の姿を考えていった。

#### 生活を楽しんでいる将来の姿（願い）

- ・落ち着いて働く姿
- ・余暇活動が充実している姿
- ・精神的に安定している姿
- ・リズムある健康的な生活を送る姿
- ・自分で決定する喜びを感じる姿
- ・自由と責任をわきまえた姿
- ・家族の一員としての役割を果たす姿
- ・地域の中で充実した生活を送る姿

この話し合いを受け、高等部では

- 豊かな体験を通し、思いを広げ、一人でもチャレンジする力を育てる。
- 人との関わりを通して、共に生きていく喜びを育てる。
- 自分なりの充実感を感じる場面を多く設定することにより、自尊感情を育てる。

の3つを指導の重点として、取り組んでいこうと話し合った。

## ②授業実践

7月に全体研究の取り組みとして高等部で授業公開を行った。まず、授業公開に向けて各学年の実践を話し合い、生活一般における3年間の積み上げを、次のように捉え、生活一般における各学年の縦のつながりを考えた。

- 1年・・・集団で取り組む
- 2年・・・グループで取り組む
- 3年・・・より個で、自分一人で学習に取り組む

授業公開を行う3年生では、「卒業」「就労」ということが目前に迫ってきていることもあり、卒業後の生活を意識した学習を取り入れた。自分の住んでいる町について調べたり、実際に行ってみたりすることで自分で活動できる場が広がり、将来の生活を楽しむことにつながると考えた。そこで「ぼく・わたしのすんでいるまち」という単元を設定し、実践していくこととした。授業公開では生徒一人を取り上げ、個別の指導計画との関連を追っていった。関連を明確にするため、個別の指導計画と授業との間にある資料を作成し、関連を探ったが、資料のあり方、関連の持ち方は課題として残った。

(2) 本年度後期の取り組み

① 「生活を楽しむ」についての話し合い

前期の「生活を楽しむ」の話し合いの中で、生活を楽しむ生徒たちの姿や指導の重点について理解し合ったが、依然としてテーマに対する教師の考え方がさまざまであることがわかった。そこで「高等部で生活を楽しむために何をしていたらよいか」という疑問にせまり、再度話し合っていくこととした。

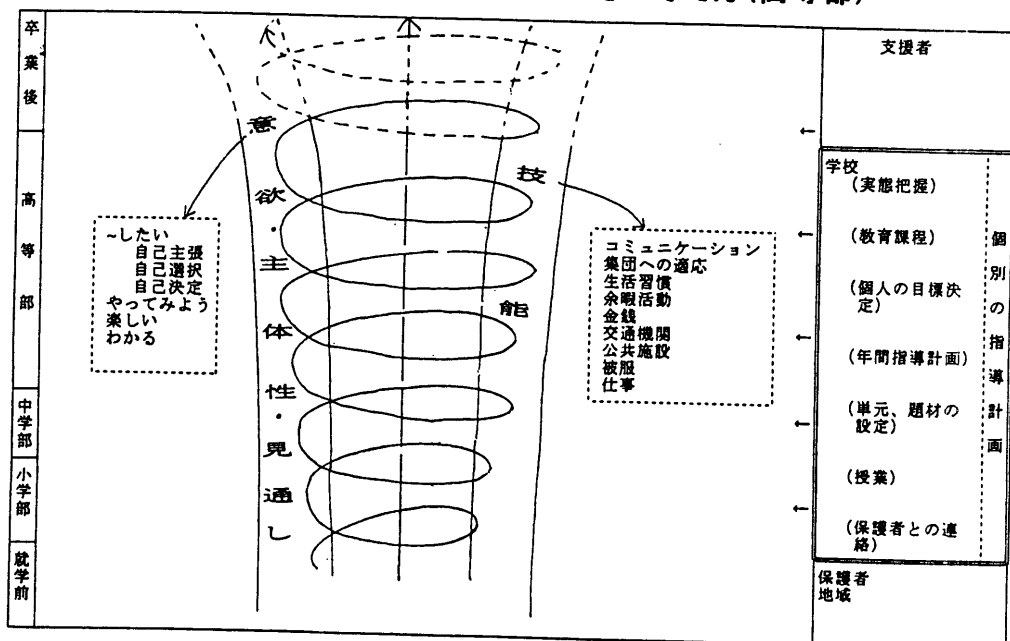
○ 生徒たちの生活を語り合おう

高等部の生徒たちは、学校生活の中で、友達に囲まれ、さまざまな経験をすることによって多くの充実した生活を送っていると考えられる。では、卒業生たちは、卒業後の生活を十分に楽しんでいるといえるであろうか。働くことによって報酬が得られ、作業所へ生き生きと通勤している卒業生、就労先で自己主張をする卒業生等「生活を楽しんでいる」と思われる姿もある一方で、報酬の使い方がわからなかったり、休日等が有意義に活用できなかったりして「生活を楽しんでいない」と考えられる姿もある。そのような生徒の姿を語り合い、高等部では何をしていたらよいかを考えていった。

○ 高等部で何をしていたら・・・

高等部の生徒たちは、教師が生徒の思いや考えを受け入れ、主体的に取り組む場を多く設定していくことで、生活に必要な技能を少しずつ身につけていくことができる。それと同時に、次の学習への意欲、主体性を高めていけるものと考えた。「技能→意欲→技能」の習得の繰り返しの中で、自尊感情が高まり、自分自身に対して自信を持っていくのではないだろうか。その姿こそ、生活を楽しんでいる姿と話し合った。この考えを表にまとめたものが表4である。

表4 ライフステージにおける「生活を楽しむ」の考え方(高等部)



## ② 個別の指導計画についての話し合い

高等部の生徒たちが、現在の生活をより楽しむためにも、個別の指導計画を授業に生かしていきたいと考えた。個別の指導計画を作成するに当たって得られた情報を、できるだけ授業の中で生かしていこうとした。私たちが、授業実践の中で行っていることをまとめたのが表5である。

表5 個別の指導計画を生かすために実践していること

□実態把握において	—	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 諸検査等をとおして発達段階について調べる。</li><li>・ 自分づくりの段階表で心の育ちについて考える。</li><li>・ 生活マップ、保護者との話し合いによって今までの生活経験、教育的ニーズについて知る。</li><li>・ 本人との関わりの中で興味・関心、見通しの持ち方について情報を得る。</li><li>・ 検査、段階別教育内容表等より獲得技能等について知る。</li></ul>
□単元、題材の設定において	—	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生徒の実態や目標を意識して、単元を組む。</li></ul>
□授業において	—	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 一人ひとりの発達、心の育ち、目標、課題、興味関心等実態把握したことに配慮し、支援をする。</li></ul>
□授業後において	—	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生徒の様子を確認する。次の課題を検討する。</li></ul>
□保護者との連携において	—	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生徒の様子を保護者へ連絡し、協力をお願いする。</li></ul>

個別の指導計画の中で心の内面を含めた実態把握を大切にし、技能の向上のみをねらうのではなく、さまざまな支援によって、意欲・主体性を育てる。そのことがさらには自尊感情を培い、現在の生活を楽しむ姿に導くことができると考えている。現在の生活を楽しむことは、将来の生活をより楽しむことにつながるのではないだろうか。

## ③ 将来の生活をより楽しむために

今回、高等部では、学校内において学部間の連携を考えるとともに、卒業後の受け皿である社会、また生徒を現在も支えている家庭との連携ということを重視していこうと考えた。保護者、就労先の方との情報交換を大切にし、個人への支援のあり方を探っていきたいと考えている。そして、卒業後も個々に合った周りの方の支援を受け、充実した人生を歩んでいってほしいと願っている。

(西尾敏枝)